

## 令和3年度(2021年度) 宣真高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

仏教的な慈愛の精神を基調とした、他者への思いやりを実践できる女性を育成するとともに、社会において自主的・自立的に活躍できる女性となるためのキャリア教育の充実を目指す。

普遍的な心の教育と、可変的な時勢の求める有益な教育内容をよく吟味して、生徒の内面に自分で考えて自分で道を切り開く気概を育てたい。そのため生徒一人一人の個性、適性をよりよく伸ばし、生き生きと自己表現できる教育環境を整えていく。

また規範意識、公衆道徳、マナーの面において他者の模範となるような生徒を養成して、地域から信頼される学校作りを地道に持続する。創立百周年を迎え、次なる轍を刻むにあたり、伝統校として恥ずかしくない信用と実績に応える教育を実践する。

### 2 中期的目標

#### 1. 学力・授業力の向上と特色・魅力のある学習指導

- (1) 各教室に設置されたICT機器(プロジェクター、インターフェイスボックス)と教員用ノートPCを連動させた授業やホームルーム等を実施して、より広く興味を喚起させ、生徒の理解度・思考力、解決法を育成するよう活用機会を広げる。
- (2) 成績が低迷している生徒、学習到達度の低い生徒への対応として、授業内だけではなく、授業外においても持続的なケアを行い、学校全体の学力の底上げを図る。
- (3) 放課後講習を設定・展開して自発的に学びの機会を広げたい生徒の学力向上の意欲に応えていく。複数教科において自由に選択できるような希望制の講習の設定に努める。
- (4) コース・エリア独自の特色ある授業を精選して、希望する進路に寄与する知識・技能を習得させる。総合コースの設定科目については、各エリアの習得内容の深化・特化を図るべく単位を増やし、選択科目の単位を減らす。

#### 2. 進路保障と進学実績に結び付く指導基盤の確立

- (1) 自分の進路を考え、進んでいく力を養うために診断テストやガイダンスを実施し、進学に有益な情報を不足なく発信・提供して、希望する大学・短大・専門学校等への安定した合格実績を伸ばす。
- (2) キャリア教育の一環として、スキルアップの有効な指標となり得る各種検定や資格試験(日本漢字能力検定、実用英語技能検定など)の成果の向上を図る。
- (3) 就職希望者への情報提供、事前指導、面接練習を計画的に実践し、就職試験を突破するための社会性・適応力等を伸長させるように図る。
- (4) 不登校生をカウンセリング室体制により支援して、教室復帰、登校の定着、授業参加へとつながるように、カウンセラー・CR担当教員・担任・保護者・教科担当者らがグループとなって情報や対処法について連携を図る。

#### 3. 多様な価値観の共有と安心安全な学校生活作り

- (1) 集団生活における規範意識を育成するとともに、ジェンダーレスに配慮した多様な受け入れ態勢を整えて、公平公正な社会に主体的に参加するための前提となる精神性について、一人一人のあり方について向き合った指導をしていく。
- (2) 自然災害発生時、ならびに新型コロナウイルス感染生徒が判明した折のすみやかな対応について、シミュレートできる対処案については教職員全体で共有し、課題点・改善点が判明した場合は至急しかるべき措置をとる。
- (3) 生徒が快適な学校生活を送れるように、各施設・設備について体育館改築を含めた耐震補強工事と同時に、健康・安全の観点から計画的に改装・入替・新設を実施していく。

#### 4. 運営体制の適正化と教職員の連携促進

- (1) 校務及び業務実態の見える化を引き続き図り、働き方改革の一助として勤務環境のスリム化・合理化を推進する。
- (2) 健康的かつ効率的な勤務形態のあり方について、分掌配置も含めた全体的な人員配置について人事面での配慮を促進する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 学力・授業力の向上と特色・魅力のある学習指導	(1)授業におけるプロジェクターと教員ノートPCの連動による、多角的な教授法を整備・実施する。	a 各教室にホワイトボード、プロジェクター、インターフェイスボックスを設置する工事を行い、教員の教授法の改善・見直しを図る機会とし、生徒の満足度・理解度を向上させる。 b オンライン会議システムを利用して、講堂での式典・講習・講話などを各教室に配信し、生徒が教室にいながらにして参加できるようにする。	a 自己評価アンケートの [ICT 授業への取り組み] A+B 肯定的評価 (今年度初) b 講堂から各教室への同時配信行事の実施状況	a [ICT 授業への取り組み]の肯定的評価 ・教員 76% ・生徒 82% 全教科の教員が毎時間プロジェクターを使用しているわけではないが、積極的かつ効率的に、生徒の関心を引き出すツールとして活用している。活用頻度の高い教員もいるため上記割合となったと思われる。生徒にはわかりやすく面白い授業だと、工夫を評価する割合が高い。 b 月例奉讃会、交通安全講習、情報モラル講習、痴漢被害対策講習、薬物乱用防止講習などを教室配信した。新型コロナウイルス感染予防策として、講堂に全学年を収容できないので教室配信システムが有効に活用された。
	(2)成績不振者への授業中、授業後のケアなど継続的な個別指導を実践する	ふだんの授業において理解しにくいと訴える生徒や考査の得点の振るわない生徒、小テスト等平常点の少ない生徒などを対象にして、指名補習、プリント課題学習の点検、提出物による平常点の加味など、生徒が参加実行しやすい設定を行う。	自己評価アンケートの [補・講習への取り組み] A+B 肯定的評価 (前年度比較)	[補・講習への取り組み]の肯定的評価 ・教員 76% (前年度 76%) ・生徒 72% (前年度 79%) ・保護者 75% (前年度 77%) 前年度同様コロナ感染対策のためやむなく指名人数・回数の削減をしたのが、ポイントが前年度度と変わらない要因と思われる。しかし対面指導にこだわり考査前にマンツーマン形態で実施した長欠生徒の中には、平均点が20点アップした者もあり一定の成果は見られた。
	(3)学力向上意欲に応えるための授業外講習を計画的に実施する	看護系コース独自の放課後「校内予備校」(看護医療予備校講師)以外に、総合コースからも希望者を募る「放課後特別講習」の募集告知、実施期日の計画表の発表、教科別に希望できる90分授業を実施して、継続的に学力向上に取り組む習慣を形成する。	「放課後特別講習」の学年別の実施教科、実施回数、実施人数 (前年度比較)	1年 国語・英語 年間35回 約15名 (前年度 国語 18回実施 17名参加 英語 17回実施 18名参加 数学 17回実施 15名実施) 2年 国語・英語・数学 年間17回 約10名 (前年度 国語 16回実施 3名参加 英語 18回実施 7名参加 日本史 13回実施 4名実施) 3年 国語・英語・社会 年間13回 約5名 前年度はコロナ休校指示のため新学期6月開始で一学期の放課後講習が見送られたが、3年度は一学期から実施できたので回数が増えた。
	(4)コース・エリア独自の魅力ある授業をブラッシュアップして希望の進路につなげる	a 総合コースの2年次からの4エリア設定について、コース担当教員が中心となって、目的と教育効果を検討し直して、グローバルな学習内容となるよう必要な改編に踏み切る。 エリア設定科目と選択科目も見直す。 b 看護系進学コースを2年次より志望先に対応すべく、看護医療系と文系の二つの進学エリアに分化させ、一部カリキュラムも分化させる。	ab 共通 自己評価アンケートの [コース特色満足度] A+B 肯定的評価 (前年度比較) a 総合コース改編結果 b 看護系コースの分化スタイル	ab [コース特色満足度]の肯定的評価 ・教員 79% (前年度 76%) ・生徒 90% (前年度 89%) コース制が古びないように毎年教員自身による課題の発見改善の努力が必要。継続は力。 a 総合コースの「アドバンス進学」を「キャリアデザイン」と改編。進学だけではなく他エリア以外の進路を希望する生徒を吸収し、広汎な社会的視野の習得をメインに据えた。また全エリアの自由選択を1講座減じ、設定科目を1科目増やして、エリアカラーに沿った学習分野の間口を広げた。 b 2年次より看護系コースを2エリアに分け、実力錬成を図るために次の単位数を、文系進学エリアには〈国英〉科目を、看護医療系進学エリアには〈数理〉科目を分けて担当した。 [2年次] 6単位 [3年次] 13単位

<p>2. 進路保障と進学実績に結びつく指導基盤の確立</p>	<p>(1)自分の進路を考える力を養うための診断テストやガイダンスを計画、進学に有益な情報を発信提供して希望の大学・短大・専門学校への合格率を伸ばす</p>	<p>a 診断テスト(ベネッセ)の企画を導入して、教員が適切な指導を行い、生徒各自が振り返りを通じて自己実現について能動的に考える契機を設ける。特に診断テストのG T Z (学習到達度)の指標S A B C D…を向上させるという、具体的な目標を生徒に示し、ワークブック「One-WEEK トライアル」に取り組む習慣を付けるよう声掛けを図る。</p> <p>b 進学ガイダンスを通して受験に関する情報や疑問に対する相談を行う。自己推薦書・作文の書き方指導、グループおよび個人面接の指導などを丁寧に行う。</p> <p>c 個々の希望に則した進学実績の向上につなげる。近年はA0入試の利用生徒が多いので、早めに志望校の決定を調整する。指定校推薦(特別推薦)枠の有効な活用と振り分け、そして指定校の枠・人数の拡充を図る。 看護系進学コースからの看護系学校への進学実績について前年度維持以上の成果を目指す。 実力ある生徒の一般入試対策にも力を入れる。</p>	<p>a 診断テストの実施回数、G T Zの各ゾーン向上度</p> <p>b 進学ガイダンス(会場=池田市民文化会館)の実施状況</p> <p>自己評価アンケートの [説明会の設定] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p> <p>c 入試区分別、学校種別合格者数と全体に占める割合(前年度比較)</p>	<p>a 全コース 基礎力診断テスト 1年…3回 2年…3回 3年…2回 看護特進コース 実力診断テスト 1年…3回 2年…3回</p> <p><u>G T Zの推移(上位A・Bゾーン該当率)</u></p> <p>1年 A 0%→2.6% B 12.3%→11.4% 2年 A 3.6%→4.9% B 10.1%→12.5% 3年 A 0.7%→0% B 5.4%→4.8% 看護特進1年 A 5.4%→6.3% B 12.5%→18.8% 看護特進2年 A 0%→2.3% B 7.6%→11.4%</p> <p>b 3年対象進路ガイダンス(6/23)参加校 80校 2年対象進路ガイダンス(10/27)参加校 60校 1年対象進路ガイダンス(1/19)参加校 40校</p> <p>[説明会の設定]の肯定的評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員 94%(前年度76%)</li> <li>・生徒 81%(前年度77%)</li> <li>・保護者 78%(前年度74%)</li> </ul> <p>いつ休校になっても困らないように、「進路だより」を進路指導部が毎月発行して、生徒に必要な進学情報を早めに提供したのも高評価につながり、面接個別指導など進路指導全般への生徒保護者の肯定的評価も80%前後と高く、信頼度維持に努める。 診断テストG T ZのDゾーン生徒を卒業までにCゾーンに引き上げることを最低ラインの目標とし、実績の面からも上位ゾーン該当率を上げていきたい。</p> <p>c ●入試区分別合格率 A0入試 30%(41%)・指定校推薦 56%(48%) 公募推薦 8%(6%)・一般入試 4%(2%)</p> <p>●合格者数と全体に占める割合</p> <table border="0"> <tr> <td>大学</td> <td>90名…39%</td> <td>(62名…36%)</td> </tr> <tr> <td>短大</td> <td>46名…20%</td> <td>(33名…19%)</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>96名…41%</td> <td>(79名…45%)</td> </tr> </table> <p>※上記内、看護系学校36名(対希望者合格率97%)</p> <p>年内に進路を決めようという傾向がこの年度も強く、一般入試希望者は少なかったが、その中で関西学院大学・関西大学・京都女子大学・武庫川女子大学・千里金蘭大学(看護学部)を突破した生徒が出たのはおおいに今後の進路指導の励みとなった。</p>	大学	90名…39%	(62名…36%)	短大	46名…20%	(33名…19%)	専門学校	96名…41%	(79名…45%)																	
大学	90名…39%	(62名…36%)																												
短大	46名…20%	(33名…19%)																												
専門学校	96名…41%	(79名…45%)																												
	<p>(2)キャリア教育の一環として知識・技能習得のスキルアップである検定・資格試験合格の成果向上を目指す</p>	<p>a 漢字能力検定、英語技能検定の受検予定者を対象とした放課後対策指導を計画し、合格率の向上を図る。 また教科主導で推進している各種資格試験の合格に向けた取り組みを継続する。</p>	<p>a 実施回数 合格者数または合格率(前年度比較)</p>	<p>a 漢字検定 ●年間合格率</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>20%(39%)</td> <td>準2級</td> <td>25%(30%)</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>32%(16%)</td> <td>4級</td> <td>13%(26%)</td> </tr> </table> <p>英語検定 ●年間合格率</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>6%(13%)</td> <td>準2級</td> <td>30%(31%)</td> </tr> <tr> <td>3級</td> <td>31%(40%)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>両検定の合格率の低下は、希望受検者より必須(コース指定)受検者の不合格者数の割合が多くなったのが要因と思われる。受検者の増加に見合った一斉型指導がしにくいコロナ禍であったのも災いした。</p> <p>I C Tプロフィシエンシー(P検)検定</p> <table border="0"> <tr> <td>準2級</td> <td>15%</td> <td>3級</td> <td>42%(26%)</td> <td>4級</td> <td>92%(68%)</td> </tr> </table> <p>食物調理技術検定</p> <table border="0"> <tr> <td>2級</td> <td>60%</td> <td>3、4級</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>上記検定の成果は、主に授業を通して練度を高めた上で、個人的な復習、自学自習の努力が加味された結果といえる。2級以上は式典時に表彰されるのもモチベーションの一助になったのかもしれない。</p>	2級	20%(39%)	準2級	25%(30%)	3級	32%(16%)	4級	13%(26%)	2級	6%(13%)	準2級	30%(31%)	3級	31%(40%)			準2級	15%	3級	42%(26%)	4級	92%(68%)	2級	60%	3、4級	100%
2級	20%(39%)	準2級	25%(30%)																											
3級	32%(16%)	4級	13%(26%)																											
2級	6%(13%)	準2級	30%(31%)																											
3級	31%(40%)																													
準2級	15%	3級	42%(26%)	4級	92%(68%)																									
2級	60%	3、4級	100%																											

		b 保育技術検定(保育系進学コース)の本校の高い合格率を維持する。合格に向けたセミナー・補講の計画を策定して、卒業までに1級を取得できるよう授業担当者間で綿密にすり合わせる。	b 保育技術検定各級の合格率(前年度比較) ※1年3級検定はコロナ禍により2分野しか前後期受検が設定できなかった。	b 保育技術検定 ●年間合格率 1級3年 95%(100%) 2級2年 76%(95%) 3級2年 97%(82%) ※1年 30% 4級1年 90%(88%) 合格率90%台を維持できた級もあるが、2年及び1年3級については次年度に不合格者の再検定を行い、最終的に卒業時の1級取得を全うする。
	(3)就職希望者への情報提供、事前指導、面接練習を行い、社会性や適応力を伸長させる	a 企業・ハローワークとの連携を図り、希望者対象に就職ガイダンスを計画・実施する。 b 挨拶・所作の指導練習、書類作成の指導支援、模擬面接を行い内定者を増やす。	a 就職ガイダンス等の実施回数 b 就職内定者数(前年度比較)	a 残念ながら集団ガイダンスや一括面接練習はこの年度もコロナ感染対策のため規模縮小せざるを得なかったが、個々の呼び出しや少数指導をキャリア推進室にて地道に実施し、生徒もよく指導に応えた。 b 就職内定者 26名(42名) 希望者内定率 93% 最後まで諦めない姿勢と、就職するという意識を持続するよう就職希望生徒への働きかけを頻繁に行うことが内定獲得に結び付いたものと思われる。
	(4)不登校生のカウンセリング室体制の支援による登校・授業参加へのバックアップと関係者の連携強化	a CR(カウンセリングルーム)生認定、配慮生徒の学年内調整と個別対応を円滑に進める。 b 支援教育、見守り対象生徒へのきめ細かい対応を行い、関係施設との緊密な連絡をとり生徒の心身の安全保障に取り組む。	a 自己評価アンケートの[不登校生に対する進級進路保障のこまやかな配慮] A+B 肯定的評価 b 関係施設との連携、面談	a [進級進路保障のこまやかな配慮]の肯定的評価 ・保護者 83% 英語・情報の授業のCR生補講のため、ICTルームを週1時間確保して授業を受けられる体制を作った。今後も進級進路保障のため柔軟に対応したい。 b 関係施設からの情報を遅滞なく学年に届け、必要な対応を速やかに行い、面談対応の場を設け、該当生徒の人権と健康を適切に保持するよう対処した。対象生徒数は増えているので注意深く対処する。
3. 多様な価値観の共有と安心安全な学校生活作り	(1)自規範意識の育成とジェンダーレス対応の基盤を作り、公平公正な社会実現のための精神のあり方について指導を確立する	a 「いじめ防止基本方針」に則り、情報モラル、人権意識を高める。 b 基本的生活習慣の指標の一つとなる「遅刻」件数を減らすよう、担任だけでなく生徒指導係の教員をはじめ全教員が諭し、励ましていく。生活指導上の方針について、生徒保護者に理解を求めよう意を尽くす。 c 痴漢、薬物被害、自転車事故に巻き込まれないための、生徒個々に自発的な防犯意識の醸成を図る。 d 制服に関して、ジェンダーレスに対応できるよう「スラックス」を導入して希望者が購入できるように図る。それによる全身コーディネートの適正化を検討する。	a 自己評価アンケートの[いじめ問題への対応] A+B 肯定的評価 b 年間遅刻件数(前年度比較) 自己評価アンケートの[生活指導の理解度] A+B 肯定的評価(前年度比較) c 啓蒙・安全講習の実施 d ジェンダーレスについての啓蒙講習、制服委員会における企画進行状況	a [いじめ問題への対応]の肯定的評価 ・教員 91%(前年度91%) ・生徒 77% ・保護者 82% いじめ事象は関係生徒らの人権を守り風評二次被害を防ぐために、初動時の聴き取り、保護者対応、説諭等の流れを必要上守秘態勢で行っている。そのため関係生徒以外には対応の実態は見えにくいかもしれないが、いじめ問題の根絶に対する学校としての固い意識は都度都度発信していく。 b 年間遅刻のべ発生件数(その年次学年の前年度数) 1年 612 2年 951(955) 3年 788(667) 年間のべ総数 2351(2373) [生活指導の理解度]の肯定的評価 ・生徒 78%(前年度62%) ・保護者 74%(前年度76%) 遅刻件数は横ばい、生活指導全般について誤解や不満が生じないよう説明と対話を続ける。 c 交通安全指導、痴漢被害対策指、薬物乱用防止講習、情報モラル指導講習を実施した。しかしSNSを通じた中傷や登下校時のマナー違反についてのクレームなどは多く、未然に防ぐためにも呼びかけの機会を増やす必要性を感じる。 d 制服委員会より制服納入業者に制作を依頼、色調見本の検討を経て決定。新入生の制服採寸時に間に合う。次年度には在校生全般にスラックス購入希望を募る予定。併せてジェンダーレス教育を各学年において実施。またオプション選択として、スラックス着用者のリボンに替えて、「ネクタイ」のデザイン検討にも着手して次年度早期に決定したい。

3. 続き 多様な 価値観 の共有 と安心 な学校 生活作 り	(2)自然災害への適切な備え、発生時の対応や新型コロナウイルス等に対する教員全体で共有すべき対処法の理解の徹底を図る	<p>a 前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の波が収まらないため、校内予防と陽性・濃厚接触生徒への迅速な対応を強化する。感染防止のための対策項目を周知する。</p> <p>b 災害発生時の対応について南海大地震を念頭に置き、身近な危機という意識を醸成して避難意識を養う。</p> <p>c 夏季に向けて熱中症予防の啓蒙活動とマニュアルの策定、設備の整備に取り組む。</p>	<p>a 府教育庁ガイドラインの周知、保健所との連携、学級休業期間の決定連絡、出校停止者の把握</p> <p>b 自己評価アンケートの[地震火災時の教育] A+B 肯定的評価</p> <p>c 熱中症予防対策マニュアル、予防のための準備・制度の構築</p>	<p>a 前年度に続いてコロナ感染対策情報についてのプリント配布、ガイドライン方針の変更連絡。学級休業の判断と期間設定とクラス家庭への告知、を休日問わず速やかに実施した。新型コロナワクチン接種の制度が本格的に始まり生徒の接種者数が増え、コロナ不安と合わせて出校停止扱い者数が増えた。</p> <p>b[地震火災時の行動についての教育]の肯定的評価 ・生徒 82% ニュース映像、ドキュメント番組などを利用して、地震発生時にその後の生活まで見据えた避難行動を考えられるよう指導した。印象に残る工夫を続けたい。</p> <p>c 熱中症対策マニュアルの策定。新規ウォータークーラーを別館横屋外に、新規製氷機を職員室内に設置。全運動部と体育科に熱中症指数計を購入、顧問に計測を呼びかける。夏季は南庭に指数計を置き、環境省から警戒アラートが発表されたときは職員室とグラウンド側扉に警告用紙を掲示するようにした。</p>
	(3)快適な学校生活を保障するため施設・設備を計画的に改装・入替・新設して、生徒の健康・安全を守るよう努める	<p>a コロナ感染対策の一環として適切な備品を配置する。</p> <p>b 次年度着工予定の体育館新築に関しての各種計画を関係者で協議する。雨天時の下足室前の混雑解消のための大庇、自転車通学者の増加に対応するための駐輪場の増設など、懸案の改築を実施する。</p>	<p>自己評価アンケートの[施設設備の満足度] A+B 肯定的評価 (前年度比較)</p> <p>a コロナ感染対策の備品</p> <p>b 増築、改築の実施状況</p>	<p>[施設設備の満足度]の肯定的評価 ・保護者 93%(前年度 93%) 前年度と同じく目に見える形で変化しているの、今回も高評価をいただいている。</p> <p>a 全教室前にペダル式の手指消毒液噴霧器を設置。アクリルパテーションの追加増設。</p> <p>b 新体育館の設計競技を重ねて方針が決定した。屋根付き自転車置き場を、既存の場所と隣接したランチルーム前広場に増設した。登校時ゆったりと間隔を空けて駐輪できるようになったと好評である。また正面玄関、下足室の入口前は雨天時に傘を畳んだり開いたりする生徒で停滞混雑し濡れる者が続出したため、大きく張り出した大庇を増築した。ホテルの車寄せに似た構造物となり1クラスの生徒ぐらいいはその下に集える。雨天時だけでなく炎天下の日よけとしても有効なスペースとなっている。</p>
	(1)校務・業務実態の見える化を図り働き方改革に反映させる	出退勤管理システムをチェックして長時間残業者へのヒヤリングを行う。また業務、分掌の時期的多忙さを把握して特定の教員に負担のかからないよう配慮する。	残業者へのヒヤリングと対処、校務編成の見直し	長期にわたり退出時間が遅い教員には管理職から事情を聴いて、助言や軽減措置等の対処を行った。この年度、コロナ禍によるいくつかの行事中止等によりその運営業務自体はなくなったが、一方で断続的にコロナ陽性者への聴き取りと動向調査まとめの業務、オンライン授業プログラムの準備計画が続いたため結果的に多忙さの軽減にいたらなかった。進路指導部内の兼務を避けるため、年度途中にはできなかったが次年度より「学習指導係」を新設して、放課後講習の計画実施業務を独立させる。
(2)健康的かつ効率的な勤務形態を目指し、人員配置の配慮を促進する	ストレスチェックの継続的实施と切り上げ退出可能日の推進を図り、校務の偏りの是正のための人員加配、上司に相談しやすい職場環境の醸成に努める。	勤務時間短縮への取り組み、希望に沿った分掌配置による負担軽減、インフルエンザ予防対策	勤務上の悩み等についての相談に対処する一方、オープンスクールなどの生徒休校日の切り上げ退出可能時には、教員たちに積極的に退出を促した。人事配置については業務規模に合わせて部署の人員の増減を行い負担軽減を図り、本人の第1・第2希望に適合するよう配置に努めた。健康管理の一環として11月～にはインフルエンザワクチン接種を学校の費用負担で教職員希望者に実施した。	

4. 運営体制の適正化と教職員の連携促進